

子どもと同じだけ胸が痛むわさせて

記憶の奥の思い出は、温かくそして不思議と匂いまでがよみがえってくる場合があります。

キンモクセイの香りが漂うこの季節になると小学生の頃夢中になった「あぶり出し」遊びが、ミカンの汁と半紙のつんと焦げた匂いとないまぜになってよみがえってきます。半紙にミカンの汁で絵や文字を描いて、乾かして火にあぶるのです。そうすると・・・不思議！描いた絵や文字が浮かび上がってきます。当時、筆者が知っている言葉で言えば「手品」でした。

次の文は、平成2年頃私が中学校で担任したA君の日記です。

テストをして家に帰った。□からためいきがでる。そんなときゲームをする。そしてたら心がなごやかになる。
(原文のまま)

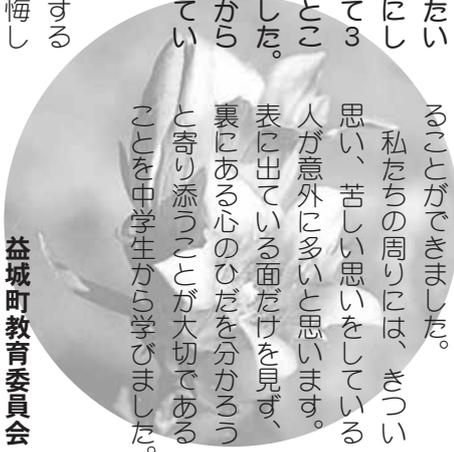
この日記を読んで□にした

言葉は、「ゲームは体に悪いぞ。やめにやんたい！」でした。ゲームの功罪も論議されていましてから、「ゲーム禁止の忠告」を伝えただけです。でも、A君は耳を貸しません。私になかなか心を開かない子どもでした。

半年も経ったでしようか。A君のある日の日記に「いじめ」という言葉がありました。

ぼくがいじめられたのは小学校のときからでした。僕は中学校になってからもいじめられました。その中でも2年生のときがいじめられました。ぼくはなんにもしていません。あたまでいたい。たりしてきました。ほかにも3年生になるまえにいじめとこうといっていじめられました。そして、3年生になってからはまだ1回もいじめられていません。(原文のまま)

半年も経ってゲームをする理由がわかったのです。悔し



益城町教育委員会

さ、腹立たしき、悲しさ、そんな思いを伝え合う仲間がない寂しさから逃れるためにゲームに向かう心のひだを分かつとしない私に、A君は心を開かなかったのです。A君が綴った日記をしっかりと読み直してみると、喜び、悲しさ、悔しさ、寂しさ、社会の見方、価値観、親の生き様までA君の「熱い思い」があぶり出されて見えてきました。

以後、日記を通して、A君と同じだけ胸が痛むわせて私自身のことを書き、A君と心の交流を図りました。私に心を開いたA君は心の底からつながることができた友ともつくることができました。

私たちの周りには、きつい思い、苦しい思いをしている人が意外に多いと思います。表に出ている面だけを見ず、裏にある心のひだを分かつと寄り添うことが大切であることを中学生から学びました。

あゆみの地を巡る

歴史の変遷と地名

福原村「…上福原村下福原村アリ此内二南福原村・谷口村・安養寺村：アリ」(肥後国誌)「安養寺大楠山東光院・台宗觀山正覚院末寺・桓武帝勅願トシテ延暦年中四釈迦院英善大師ノ艸創・本尊薬師佛七葉善ノ作ト云・年貢地ナリ」(肥後国誌) 安養寺村は安養寺の門前村です。

三竹橋から甲佐に到る通称「まみこロード」(広域農道)の工事で消滅し、今は記録保存遺跡である福田寺の末寺とされる谷川の安養寺は「國郡一統志・肥後地誌略・肥後文獻叢書第四卷・雑華錦語集」の各古記録に残る著名な古寺です(益城町文化財報告第八集・益城町の中世山岳寺院)。

安養寺は第五十代桓武天皇の祈願所として延暦年中(七八二〜八〇五)に草創とされますが、森山恒雄熊大名誉教授は益城町史で福田寺末寺との関連で、開基は十四世紀の鎌倉期末から南北朝とされています。

雑華錦語集の大楠山安養寺東光院棟札は、戦国時代の安養寺を物語る資料ですし、肥後文獻叢書第四卷は豪淳大僧都の事蹟を述べています。山

号は境内にあった楠によつたとされます。

以後盛衰を重ねて維新の廃仏毀釈により最後の住職三輪浦民生氏により廢寺にされたが、建物は荒廃しながらも明治中期までは存在し、本尊の薬師三尊は赤井の平渡瀨に移住の三輪浦氏の納屋の二階に置かれていたのを、明治十六年旧八月十二日に内寺の御堂に安置されました。

住職の三輪浦氏一族の遺骨は平成十年十月二十三日子孫の三輪浦淳多氏により田中の皆乗寺で丁重な法要の後、千葉県の本家の墓地に改葬されました。



安養寺大楠山の鬼瓦「益城の中世山岳寺院」より

益城町文化財を訪ねる会

会長 松野國策